

# 全小社研

発行所  
・全国小学校社会科研究協議会  
・東京都杉並区高井戸2-2-1  
・発行人 久保田 福 美 行  
・編集人 後 藤 信

## 思考力、判断力、表現力を 育てる授業づくりを

文部科学省教科調査官 澤 井 陽 介



昨年五月に文部科学省が発出した「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善について」の通知では、目標に準拠した評価を継続することを含め、学習評価の改善を図るための考え方が示された。その別紙5には、一部変更された観点別学習状況評価の観点とその観点の趣旨が示されている。この観点で四月から各学校において学習評価が行われることになる。

そこで本稿では、今回「表現」の観点の位置付けが見直されて新たに示された「社会的な思考・判断・表現」の観点の趣旨を踏まえた指導と評価のポイントについて述べたい。

### 1 観点を理解すること

これまで以上に「思考・判断し表現すること」を重視する趣旨であり、そうした力を身に付けていくかどうかを評価する観点である。社会的事象について思考・判断(たとえば、学習問題を見いだしたり、社会的事象の特色や相互の関連、意味などについて、広い視野から考えたり、公正に判断したり)したことは説明、論述、討論など、「話す」「書く」といった言語活動を通して表現される。こうした言語活動を中心に評価することを意図した観点である。児童のワークシー

トの記述や作品等から「思考・判断」の状況を読みとることは、今後の授業研究の視点の一つとなる。

### 2 評価場面を明確にすること

国立教育政策研究所では、ホームページ上に各学年の内容における「評価規準例」を掲載している。注目していただきたいのは、各観点について単元ごとに中心となる評価場面を想定して評価規準例を設定している点である。たとえば、「社会的な思考・判断・表現」の観点では、「学習問題や予想、学習計画を考え表現する場面」と「社会的事象の特色や相互の関連、意味を考え表現する場面」の二つの場面に即して評価規準例を示している。中心となる評価場面を明確にして、評価の観点を絞り、確実に子どもの学習状況を把握することを意図しているのである。

①指導のねらいを明確にし、それに即して評価する  
社会科は内容のまとまりで構成されているため、「考える」との多くは「内容について理解する過程」となる。「思考・判断」を単元末などにバーバースト等で評価しようとしても、一度学んだ内容は「知識」で解けてしまいう設問が多くなるのはそのためである。したがって、「社会的な思考・判断・表現」の観点で評価するには、教師が資料提示を工夫したり、調べた事実を並べたりして、「比較したり関連付けたり、再構成したりして考えさせる」といった指導のねらいをもち、そのねらいに即して評価することが大切になる。だから先の二つの評価場面を例示しているのである。

②考えた結果だけでなく、過程も含めて評価する  
子どもたちの言語による「表現」は、「大切」「必要」「すぐ」「いろいろなる」といった抽象的なもので終わることが多い。そして、これらが「考えた結果」として表現される。しかし、なぜ大切なのか、何と比べてすごいのか、いろいろとは何と何か、何を調べたから分かったのか、といったことを子どもたちは調べ活動を通して学び取っているはずである。それらの具体的な事実の積み重ねが「考えの過程、道筋」である。これを表現させることが大切である。そこで、「なぜなら」「わけは」「それはたとえば」といった「考えたこと」の言葉による表現の仕方」が一つの大切な要素になる。調べてわかった具体的な事実を根拠にして考えることが社会科では大切だからである。

### 3 終わりに

知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力などの能力は、ぐくむことは、これからの日本の学校教育の大きな課題である。昨年十一月に全小社の徳島大会に参加させていただいた。思考力、判断力、表現力を育てることで「明日を拓く子ども」を育てようという確固たる意思をもった質の高い提案並びに授業公開であった。大会全体をリードされた檜幸正会長を始めとする事務局の皆様、支援体制に尽力された全小社研理事・役員の皆様、運営並びに参加されたすべての皆様に心よりの敬意をお伝えしたい。

# 徳島大会報告

徳島大会実行委員長 檜 幸正



していただく機会を得ることができましたことを、大きな喜びとして、研究を進めてきました。

## 大会第一日目

徳島市「あわぎんホール」で、全体会を行いました。

平成二十二年十一月十八日(木)十九日(金)、第四十八回全国小学校社会科研究協議会研究大会、第三十八回四国社会科教育研究大会を、開催しました。全国各地からのべ千五百名を優に超える皆様にご参加いただいた盛大に開催できましたことを厚く感謝しあげますとともに、大会の概要をご報告させていただきます。

昭和四十五年に大会主題を「子どもの追求する社会科学習」として開催した第八回全国小学校社会科研究協議会研究大会徳島大会以来、四十年ぶりの全国大会を徳島で行うことができました。新指導要領の全面実施を間近にした時期に、全国の皆様に、徳島の研究成果を親しくご指導

目的として研究を進めてきました。その中で、判断場面ありき、討論ありきの考え方で、単元の学習をつくってしまっているのでは？との新たな課題も出てきました。

そこで、「三層六段階」を基本型とする子どもの主体的な問題解決的学習と、「価値判断・意思決定する力」を培う社会科学習を効果的に組み合わせることで、その課題を克服できるのではないかと考えました。それは、子どもの主体的な問題解決学習の過程に、子どもが「価値判断・意思決定する場面」を意図的・計画的に設けた社会科学習をつくり出すことでした。

私たちは、平成十二年度まで、第八回徳島大会以来、「三層六段階」の学習過程を基本とする子どもの主体的な問題解決的学習を研究してきました。しかし、調べた内容を共有するための発表会的な活動が、子どもの目的となりがちではないかなど、いくつかの課題も出てきました。これらの課題を解決するために、平成十三年度から「価値判断・意思決定する力」の育成を

を付けるなどして歩み寄り、よりよい主張を決定したりする力のことです。

研究の詳細は、『徳島大会紀要』をご覧ください。

また、文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官の澤井陽介先生から、「今、なぜ思考力、判断力、表現力なのか」「言語活動の充実を社会科でどのように考えていけばよいか」「徳島県社会科の取り組みの特徴」の三点について、指導講評をしていただきました。

さらに、「社会形成・参画力の基礎を育てるこれからの社会科教育」との演題で、國學院大學教授の安野功先生に、記念講演をしていただきました。講演を通して、「なぜ、社会形成・参画力なのか」「社会形成参画力の基礎を育てる問題解決な学習の充実」「思考力、判断力、表現力を育てる言語活動」「指導要録の改訂に基づく評価」について、詳細にご指導していただきました。

## 大会第二日目

徳島市津田小学校と国府小学校を会場として、「公開授業」「会場別全体会」「学年別授業研究会」「学年別課題研究会」を、実施しました。

「公開授業」では、両校ともに子どもたちが目を輝かせて生き生きと社会科学習に取り組む姿を見ていただき、その後の「授業研究会」でも活発な討議を重ねていただきました。「会場別全体会」では、第一会場の津田小学校では安野功先生、第二会場の国府小学校では国土館大学教授北俊夫先生より、両校の公開授業や取り組みを中心に「指導講話」をしていただきました。「課題研究会」では、全国各地よりこれからの授業に生かすことのできる貴重な実践報告をしていただきました。

大会でいただいたご指導・ご助言を生かし、徳島の社会科授業をさらに充実していきたいと考えています。また、大会の成果が、参会された皆様何らかの示唆を与え、各地の社会科授業づくりに少しでも寄与することができればと思っております。

終わりにになりましたが、本大会を開催するにあたり、ご指導・ご助言いただきました講師の先生方、教育委員会、校長会、全小社研事務局、会場校など、各方面の皆様にご心より感謝申し上げます。徳島大会の報告といたします。

# 第49回全国小学校社会科研究協議会研究大会

石川大会実行委員長 大西賢一



## 一 大会開催にあたって

石川県は、お陰様で今回で三回目の全国大会を開催することになりました。一回目は昭和五十三年度に全小社で初めての年度全国大会として、二回目は平成八年度に第三十四回大会「豊かな自己実現をめざす社会科学習」を大会主題として開催し、高い評価も頂戴いたしました。さて、近年の社会は大変先行き不透明であり、折しも来年度は新学習指導要領が完全実施されます。そんな状況の中から指導要領の趣旨や内容を踏まえた素材を教材化し、それらの課題の解決や対応等を学習する教育は社会科が担うべきであり、大切な使命であるにとらえました。

そこで、本大会では、社会に

主体的にかかわっていく市民を育てる教育が重要と考え、小学校社会科の究極の目標である「公民的資質の基礎を養う」を真正面から取り組むべく大会主題・副題を設定いたしました。

## 二 大会の概要

### ◇大会主題

『自ら社会に参画する力の

基礎を養う社会科学習』

―自分発、社会経由、自分行―

### ◇期日・会場

○平成二十三年十月二十七日(木)

石川県文教会館

・開会行事 全体会 記念講演

○平成二十三年十月二十八日(金)

金沢市立弥生小学校(第一会場)

金沢市立小立野小学校(第二会場)

金沢市立諸江町小学校(第三会場)

・公開授業 会場別全体会

学年別授業研究会・課題研究会

### ◇指導・講習

○全体会

文部科学省教科調査官 澤井陽介先生

○第一会場

国士館大学教授 北 俊夫先生

### ○第二会場

國學院大学教授

安野 功先生

### ○第三会場

早稲田大学大学院教授 藤井千春先生

### ◇記念講演

パティシエ

辻口博啓先生

## 三 研究の概要

大会主題「自ら社会に参画する力の基礎を養う」とは、広い視野から地域社会や我が国の国土、歴史などに対する理解と愛情を深めることであります。そして基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得し、活用して社会的な見方や考え方を養うことであります。さらに、学んだことを生かして自らの考えを広げたり深めたりするとともに、個を確立し公意識をもって自分の生活を見直すことであります。

また、よりよい社会に参画するためには、かかわり合いを通して「社会を見る」「社会がわかる」「社会にかかわろうとする」学習過程が重要と考えました。これらの学習過程を「自分発、社会経由、自分行」と整理し、副題として設定しました。

## 四 おわりに

これらの主張を子ども達の姿や「石川プラン21」からお酌み取り願えれば幸いです。

# 全小社研事務局だより

全小社研事務局長 佐藤 繁 則



はじめに、全小社研の諸事業につきまして、各単位団体の理事の皆様や会員の皆様にご理解とご協力をいただいておりますことに、心より感謝申し上げます。お陰様で、平成二十二年度の事業も順調に執行され、第八十九回理事会も十一月十八日に無事終了しました。開催地の徳島の皆様にたいへんお世話になりました。お礼申し上げます。

議事につきましては、予定どおり承認されました。  
一 次回全国大会の開催案内  
第四十九回 石川大会  
平成二十三年十月二十七日(木) 二十八日(金)

### ① 大会主題

「自ら社会に参画する力の

基礎を養う社会科学習」

② 会場・第一日目 全体会

石川県文教会館ホール

第二日目

第一会場 金沢市立弥生小学校  
第二会場 金沢市立小立野小学校

第三会場 金沢市立諸江町小学校  
③ 石川大会事務局長・連絡先  
金沢市立三馬小学校

校長 島津 健一

二 研究集録第四十六集の発行

今年度も個人論文の応募を

りがとうございます。二月末に

文部科学省教科調査官 澤井

陽介先生に論文審査をお願いし、

三月末に刊行し、各団体・会員

の皆様に配布いたします。

三 各地域の動向

各団体の組織・事業計画・研

究校等を調査し、冊子にまとめ

七月に配布しております。各地

域の活動の様子を把握していた

だき、相互に交流が活発になる

ことを期待します。

四 会報「全小社研」の発行

会報を年二回発行しております。

全小社研の活動が広く全国

の会員の皆様に伝わるように努

めております。なお、会報の配

布については、各団体の事務局

長宛にお送りします。ご協力を

お願いいたします。

五 個人会員の募集

全小社研の諸事業は、各単位

団体と個人会員の会費等で成り

立っています。社会科教育をさ

らに発展させるために、多くの

皆様の参加をお願いします。

# 各都道府県の動向

## 北海道・茨城県・福井県・京都府・沖縄県

### 北海道

各地区の特性を生かした研究

北海道社会科教育連盟

委員長 吉川 秀樹

第65回北海道社会科教育研究大会が旭川市にて開催されました。新3カ年研究テーマ「今」を知り、北の未来に参画する子の育成の初年度大会にふさわしく、小・中7授業を中核に50名の参会者に十分な手応えを感じさせる研究大会となりました。広大な北海道の特性から本連盟は10余の各地区組織が地域の実情に応じた副主題等を設定し、授業研究、指導力向上等に取り組んでいます。同時に各地区研究大会で実践・協議した成果を全道大会に持ち寄り更に検討を深め合うことを営々と継続しています。その他、指導要領改訂に関わる副読本作成、会員以外の授業力向上を目指したセミナー開催や板書型指導案集の発行など「北海道及び各地区」の持ち味を生かした活動を積み上げていきます。今年も根室地区での全道大会に向けた各地区の取り組みが進んでいます。

### 茨城県

茨城県の取組について

茨城県社会科教育研究会

部長 飯島 尚之

茨城県社会科教育研究部では、平成二十三年度の第十六回関小社茨城大会の開催に向けて研究を進めています。大会主題は『「かかわり」を大切に「みえる」「わかる」子どもが育つ社会科学習の創造』

社会科の学習を通して「かかわり」を大切にしながら、社会的現象のつながりや背景が「みえる」、その意図や意味、自分の在り方が「わかる」子どもをほぐくむ社会科学習を目指しています。会場校は水戸市の浜田小、常磐小、緑岡小の三校です。本年度の取組としては、八月に指導案検討会及び國學院大学の安野功先生による模擬授業。一月には会場校三校において授業研究会を実施しました。いずれも熱心な先生方の参加により充実した研修となりました。

平成二十四年一月二十七日の茨城大会に多くの先生方がご参加くださいますよう、よろしくお願いたします。

### 福井県

福井県の取組み

福井県小学校教育研究会社会科部会

部会長 平馬 吉隆

福井県では、県小教研社会科部会と県中教研社会科部会が一緒になって福井県社会科研究協議会を結成しています。小・中学校の教員が連携し、研究活動を行っています。小中連携が重要視されている今日、この共同研究は大変意義深く、これまで本県の社会科教育において多大な成果を上げてきています。

六年前から「社会に主体的に参画する子どもを育てる社会科学習」を研究主題として、研究実践を積み重ね、隔年ごとに研究大会を開催してきました。

昨年度から、「自分と社会のかかわりを実感し確かな社会認識を獲得する教材開発」「子どもが社会に参画する学習活動の工夫」「社会参画型の評価の工夫」に視点をあて、実践を積み重ねてきました。その成果を福井県社会科教育研究大会鯖丹大会において発表しました。本大会の成果と課題を機関誌「福井県の社会科」にまとめ、年度末に発行する予定です。

### 京都府

京都市小社研の動き

京都市小学校社会科教育研究会

会長 久保田耕司

新たな目標である第五十二回全国大会（平成二十六年）に向けて、新体制で発表をきっています。全国大会としては、平成十四年度に年度大会を開催させていだいて以来のこととなります。

今年度は、新学習指導要領の完全実施に向け、京都市独自の年間指導計画の作成や中学年の教材として活用する副読本「わたしたちの京都」の作成などを進めてきています。また、研究会本来の活動として、研究主題「子どもが輝く社会科学習」の明日の社会をつくる子どももとの、授業研究を積み重ねています。

京都社研の伝統である、実践を通して子どもの姿から研究が深められるよう、理論先行型の研究にならないよう、そして、平成二十六年度の全国大会に繋がられるように活動しているところと

### 沖縄県

沖縄へ、めんそーれ

三十年ぶりの全国大会開催

沖縄県小学校社会科教育研究会

会長 三田井 裕

昭和五十六年六月、まだまだ若い研究会が全国大会を開催させて頂いて、はや三十年が過ぎました。そして平成二十六年には二回目の全国大会（年度大会）が開催できることになりました。

沖小社研は大きな組織ではありませんが、小さいなりにエネルギーに活動を続けています。昨年の県大会は、離島の石垣島で、そして今年、本島北部の国頭地区で、ともに初めての開催となりました。両地区ともへき地校を数多く抱える地域ですが、本会の最も大切にしていく「地域に根ざし、地域に支えられた」大会となりました。やる気があれば少数でも事はなると実感した大会となりました。

これからの三年間、さらに力を付け、全国大会ではその成果を皆様にご紹介できるものと確信しています。沖縄にめんそーれ（いらっしやいませ）お待ちしております。